

# 所報むろと

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

第 38 号

—令和6年度事業報告等—



## 報告書発刊に際して

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家

所長 西岡 敬三

この度、令和6年度に実施しました事業等の報告をとりまとめましたので、関係機関・関係者のみなさまにご覧いただき、ご意見やご助言を賜ることができれば幸いと存じます。

また、一旦途絶えました事業報告書再発刊に際し、ご協力賜りました関係のみなさま、担当職員他に深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり、令和元年(2019年)末より地球規模での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、従前の当所事業運営は中断・見直しを迫られ、令和5(2023年)5月には、緊急事態宣言は終了しましたが、その後の世界は、“コロナ禍”以前とは異なる社会情勢となりました。

当所におきましても、このような影響下十分な利用者確保や研修支援、教育事業の実施が困難となる状況に直面し、令和6年(2024年)度は、事業の厳選と新たな魅力づくりに取り組んだ1年でした。幸いにも地元室戸市、高知県他四国の各学校、関係連携団体他にご支援ご協力をいただき、新たな歩みを始めたところです。

おかげさまで、みなさまのご助力により、「Mキャンプ～むろと廃校水族館に泊まろう～」(むろと廃校水族館)、「防災キャンプ」(室戸市・室戸ジオパーク推進協議会)、「イングリッシュキャンプ」(室戸市教育委員会)、「くろしお祭り in とろむ」(室戸市他)、実践研究事業「幼児期の運動プログラム」(高知大学)他の事業等を実施することができ、大きな成果を上げることができました。

また、ボランティアの方々には、様々な場面で当所運営に“近い距離”でのご協力をいただき改めまして感謝申し上げます。

一方、文部科学省におきましては、令和6年(2024年)夏より令和7年(2025年)「国立青少年教育施設の振興方策に関する検討会」が開催され、令和7年(2025年)8月に報告書が出されたことを受けて、当所を含む青少年教育施設等を取り巻く環境は変化しつつあります。

このことも踏まえつつ、一層新たな魅力づくりにチャレンジして参りますので引き続きご支援賜りますよう切にお願い申し上げます。

# 目 次

## 令和6年度事業報告

### 教育事業

●教育事業一覧	1
●ファミリープログラム	2
●ボランティア養成講座	6
●Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」	9
●「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 室戸	15
●くろしお祭り2024 in とろむ	22
●防災キャンプ in 室戸	25
●つくってあそぼう！わくわくキャンプ～冬の大冒険～	30
●むろとで先取りお正月キャンプ！	33
●イングリッシュキャンプ	36
●室戸ボランティアリーダー活動報告	39

### 研修支援

●活動プログラム指導状況一覧	40
----------------	----

管理運営報告	41
--------	----

広報活動	42
------	----

利用実績	44
------	----

**令和6年度教育事業一覧**  
 (むろと黒潮・体験の風をおこそう運動実行委員会主催事業を含む)

国立室戸青少年自然の家

月	日	事業名	募集人数	応募人数	参加人数	備考
4	27~28	ファミリープログラム①	24家族	348	78	101家族348人の応募
	28~29	ファミリープログラム②			100	
5	11~12	ファミリープログラム③	24家族	24	21	第1弾、第2弾の落選者向けの事業
	20~21	【指導者養成事業】ボランティア養成講座			24	
8	6~7	Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」①	50	222	50	むろと廃校水族館、地元大敷組合
	7~8	Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」②	50		47	むろと廃校水族館、地元大敷組合
	13~14	【生活・自立支援事業】むろと元気塾①				延期1/18~1/19
	22~24	「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿in室戸	30	7	7	
	29~30	Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう」③	50	222		中止
10	5~6	くろしお祭り2024inとろむ	24組	18	68	日帰り460名、宿泊者18グループ・68名
	26~27	防災キャンプin室戸①	20	54	23	
11	11~12	防災キャンプin室戸②	20		24	
12	14~15	ボランティア自主企画事業「作って遊ぼうわくわくキャンプ」	20	34	31	室戸ボランティアリーダー
	26~27	室戸で先取りお正月キャンプ	30	8	7	
1	5~6	Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」④	50	53	16	①②落選者③当選者向けの事業
	11~12	Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」⑤	50		24	①②落選者③当選者向けの事業
	13	身体を動かす楽しさを知ろう！	35	35	35	高知大学とのコラボイベント
	18~19	【生活・自立支援事業】むろと元気塾②				中止
	19	「地域探究プログラム」地方ステージ				国立大洲青少年交流の家にて開催
2	8	「地域探究プログラム」全国ステージ				国立オリンピック記念青少年総合センター
	15~16	【SDGs開発事業】英格リッシュキャンプ	20	79	26	
通年		【実践研究事業】幼児の運動プログラム				令和3年度から6年度の継続事業 高知大学と認定子ども園田野っ子と連携

### ○ボランティアリーダー関連

9	24~25	リーダートレーニング			8	
11	30~12/1	リーダートレーニング			10	
12	9~10	ボランティア自主企画事業「作って遊ぼうわくわくキャンプ」			18	参加リーダーの総数
3	10~11	4回生を送る会（ボラ卒業式）			27	

## 令和6年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

### 室戸ファミリープログラム

#### 1. 事業の概要

##### ○ 事業の趣旨

体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、自然の家の活動プログラムを通して家族が交流できる場をつくり、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。

##### ○ 実施期間

第1弾：令和6年4月27日（土）～4月28日（日） 1泊2日

第2弾：令和6年4月28日（日）～4月29日（月） 1泊2日

第3弾：令和6年5月11日（土）～5月12日（日） 1泊2日

##### ○ 対象者・参加者数

対象 小学生を含む家族24家族（グループ）90名程度

参加者 第1弾：（宿泊）21家族78名

第2弾：（宿泊）24家族100名

第3弾：（宿泊）7家族21名（第1弾及び第2弾の落選家族向けに設けた事業）

##### ○ 活動プログラム

（第1弾・第2弾）

	1日目		2日目
13:00	受付開始	7:15	朝のつどい
13:30	はじまりの会	7:30	朝食（食堂）
14:00	おもしろ自転車 ペタンク	8:45	退所点検 移動
15:00	茶摘み お茶煎り体験	9:00 9:30	流木クラフト おわりの会・記念撮影
16:00	野外炊事（カレー）	10:30	解散
19:00	移動・休憩		
19:30	焚火開始		
20:30	焚火終了		
21:00	入浴（各部屋）		
22:00	就寝		

(第3弾)

	1日目		2日目
13:00	受付開始	7:15	朝のつどい
13:30	はじまりの会	7:30	朝食(食堂)
14:00	おもしろ自転車 ペタンク	8:45	退所点検 移動
15:00	薪割り体験	9:00	流木クラフト
16:00	野外炊事（カレー）	9:30	おわりの会・記念撮影
19:00	移動・休憩	10:30	解散
19:30	焚火開始	11:00	
20:30	焚火終了		
21:00	入浴（各部屋）		
22:00	就寝		

## 2. 活動の様子

### <1日目>

第1弾・第2弾では、メインの活動として茶摘み体験（試飲含む）を行った。摘み取るのは、先の尖った新芽とその下に開いた若葉2～3枚で構成される、「一芯二葉」「一芯三葉」の部分で、必死に探しながらカゴをいっぱいにする参加者の姿があった。摘み取った新茶を使ったお茶の試飲の時間には、「美味しい」「苦い」など様々な声があがつた。

第3弾では、メインの活動として野外炊事の際に使用する薪割りを家族ごとに体験してもらった。自分たちで火付け用の細い薪になるように「なた」を使って一生懸命割ったり、大きい薪などはキンドリングクラッカーを用いて掛け声を併せて割ったりしていた。

野外炊事ではカレー作りを実施した。人数が少ない家族は苦戦する場面もあったが、協力しながらカレー作りを楽しんでいた。火の通りを良くするために細かく野菜を切る工程では「こんなに野菜を薄く切るのか！」という声があがつたり、完成したカレーを味わいながら「上手にできた！」「美味しい！」などの声があがつた。

夜は焚き火を囲んでゲーム等をして参加者間の交流を深めていた。



(新茶を摘み取るようす)



(摘み取った新茶を手もみしているようす)



(お茶を試飲しているようす)



(なたを使った薪割りのようす)



(キンドリングクラッカーを使った薪割りのようす)



(カレー作りのようす①)



(カレー作りのようす②)



(カレー作りのようす③)



(焚き火のようす)

## <2日目>

2日目は流木クラフトを実施した。自分好みの流木を選び、3種類の紙やすりを使って根気強く削っていた。オリーブオイルでの仕上げの際は、「色が変わった！」や「ツルツルになった！」などの参加者の声があった。木面によって削り具合に変化をもたせたり、あえてオリーブオイルで磨かずに作品を仕上げたり等、参加者それぞれの作品作りを楽しんでいた。



(流木選び)



(紙やすりで磨くようす)



(ヒートンと紐をつけて完成)

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

(子ども)

- ・カレー作りが楽しかった。
- ・友だちができてうれしかった。
- ・イチからお茶をつくるのは難しいことがわかった。

(保護者)

- ・普段できない体験ができた。
  - ・子どもの自主的に動こうとする姿を見ることが出来た。
  - ・子ども同士、親同士でコミュニケーションをとることができた。
- ▲集合場所が分かりづらかった。
- ▲参加しやすいように実施回数を増やしてほしい。
- ▲宿泊棟への案内表示を増やしてほしい。

#### ○ 事業の成果

- ・参加者から「普段できない活動ができた良かっただ」等の声があり、プログラムの有用性を実感することができた。
- ・初めて会う人とプログラムを通じて交流を深め、新たな交友関係を構築している様子がうかがえた。
- ・少人数の家族利用では人数によってできない活動も、複数団体集まることで実施が可能となり、利用者の体験の幅が広がった。

#### ○ 事業の課題

- ・参加者数に対応するスタッフ数が見合っていなかったため、スタッフの適切な配置を再検討する必要がある。
- ・時間に余裕が無いタイミングが生じたため、時間にゆとりをもったプログラム計画を行いたい。
- ・野外炊事でカレー作りを行ったが、人数が少ないとご飯の炊き方やカレーの汁が少なくなってしまったため失敗する家族がいた。
- ・焚き火に参加したかったが、子どもが小さいため参加できなかつたとの声があつたため、もう少し時間を早めるなどの対応が必要であると感じた。
- ・参加者移動時の誘導人員の適切な配置や、施設内の案内板の設置数を増やす等の対策が必要であると感じた。

# ボランティア養成講座

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

### ○ 実施期間

令和6年5月25日（土）～令和6年5月26日（日） 1泊2日

### ○ 参加者数

24名（高知大16名、高知県立大7名、高校生1名）

### ○ 講師

瀬沼 健 氏（高知県キャンプ協会 会長）

田辺 秀 氏（WILD BLUE 代表）

国立室戸青少年自然の家 職員

### ○ 活動プログラム

	5月25日（土）		5月26日（日）
10：00	開講式	07：15	朝のつどい
10：20	青少年教育	07：30	朝食（食堂食）
12：10	昼食（食堂食）	08：45	退所点検
13：00	ボランティア登録制度について理解する	09：00	ボランティア活動の技術②「野外炊事」
14：10	ボランティア活動の技術①	12：20	安全管理②「熱中症対策・緊急時の対応」
15：20	青少年教育施設の現状と運営	13：30	ボランティア活動の意義
16：30	青少年教育施設におけるボランティア活動内容理解	15：15	閉講式
17：30	夕べのつどい		
17：45	夕食（食堂食）		
18：30	安全管理①「危険予知トレーニング」		
20：30	入浴		
21：00	情報交換会（自由参加）		
22：00	就寝		

## 2. 活動の様子

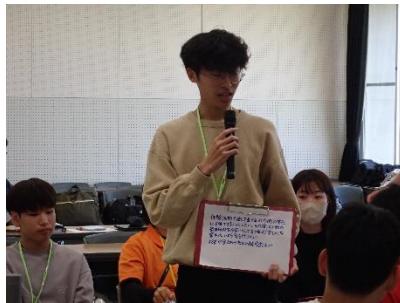
瀬沼健氏（高知県キャンプ協会 会長）、田辺秀氏（WILD BLUE 代表）を講師にお招きして講座を実施した。「青少年教育」及び「青少年教育施設の現状と運営」について、当施設の西岡所長に講義とグループワークを実施していただき、青少年教育についての理解を深めた。瀬沼・田辺両氏には、「青少年教育施設におけるボランティア活動内容理解」「安全管理（①危険予知トレーニング、②熱中症対策・緊急時の対応）」「ボランティア活動の技術（①アイスブレイク、②野外炊事）」において実施の活動を意識したご指導をいただき、実践的に学ぶことができた。



青少年教育



青少年教育



青少年教育



ボランティア活動の技術



ボランティア活動の技術



青少年教育施設における  
ボランティア活動内容理解



青少年教育施設における  
ボランティア活動内容理解



青少年教育施設における  
ボランティア活動内容理解



危険予知トレーニング



危険予知トレーニング



危険予知トレーニング



集合写真

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・青少年教育について考える貴重な機会になった。
- ・学びや気付きが多かった。
- ・楽しさと学びが両立されていてとても良かった。
- ・座学はしんどかったけど、非常に実りのあるものだった。

- ・ボランティア活動をする上での必要なことを学べた。
- ・今後の活動に活かせる事ばかりで学びになった。
- ・子供の目線を考えることができるようになったと思う。
- ・注意するべきリスクへの対応力など力になった。
- ・子供と関わる際の注意点などを確認できて良かった。
- ・色々な視点から物事を考える力がついたと思う。
- ・学生同士以上に職員さんと交流ができる良かった。

#### ○ 事業の成果

- ・実践的な講義（危険予知トレーニング～野外炊事～グループワーク）を行ったことで、子供の視点で考えることや安全の確保（危険予知）について理解が深まり、多くの参加者が今後のボランティア活動や日常生活に活かせる良い経験になったと思ってもらえた。
- ・受講のたびに新たな学びや気付きがあり、毎年受講する必要があると感じた参加者がいたこと。
- ・情報交換会（自由参加）を行い参加者の学生が講師や職員と直接話をする時間が作れたことで、講師や職員を身近に感じられるような交流や意見交換ができ、講義や普段の活動とは違う学びの機会になったこと。

#### ○ 事業の課題

- ・参加者数が目標値（1施設 41人）に満たなかった要因として、食費の値上がりに加え施設使用料を徴収したこと、参加費が前年の倍額近くになり学生にとっては負担が大きくなかったこと。法人ボランティアに登録する為には一度受講すればよく、毎年の受講義務が無いことから昨年度の受講者数（51人）から大きく減少した。目標値を満たすためには、高い参加費を払ってでも、受講して良かったと思われる魅力あるプログラムを企画し、新規の受講者だけでなく受講済みの参加者にも毎年受講してもらえるようにする必要がある。
- ・1泊2日で13時間のカリキュラムを実施するには、時間割がタイトであった。オンラインでの動画の事前視聴を導入するなど、当日の実施時間を減らし時間割にゆとりを持たせられるような取り組みを検討する余地がある。

## 令和6年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

# M キャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」(第1回～第3回)

### 1. 事業の概要

#### ○事業の趣旨

むろと廃校水族館に宿泊し、研究者によるレクチャーや太平洋の定置網における体験等をとおして、海洋生物の生態や漁業等に興味関心を持つとともに室戸市や地球環境の素晴らしさに触れる。

#### ○事業期間

第1回 令和6年8月6日（火）～8月7日（水）

第2回 令和6年8月7日（水）～8月8日（木）

第3回 令和6年8月29日（木）～8月30日（金）台風の影響により中止

#### ○参加者（高知県内外の小学4～6年生）

第1回 50名

第2回 47名

第3回 台風の影響により中止

#### ○活動日程

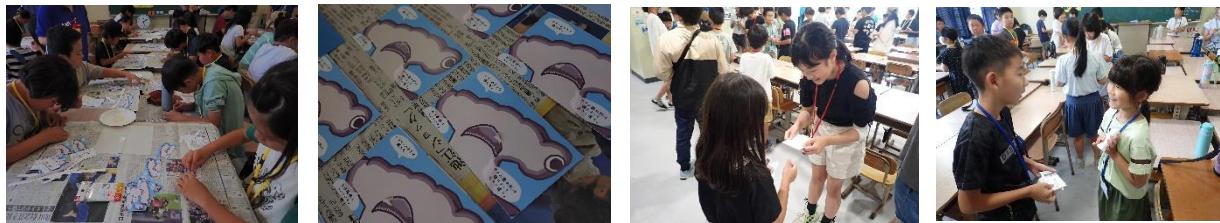
	1日目		2日目
12:30	高知方面送迎バス出発 (はりまや橋観光BT)	5:30	起床 寝床撤収
13:30	徳島方面送迎バス出発 (道の駅日和佐)	6:00	大敷網水揚げ見学
15:15	水族館到着	7:20	朝食（おにぎり）
		8:00	プールで魚と泳ごう！
		9:30	ウミガメの放流
15:30	開講式	11:30	昼食（朝どれ海鮮弁当）
15:50	サメいし作り・サメいし交換	12:15	閉講式
17:00	水族館見学		
17:30	夕食（むろと特撰弁当）	13:00	送迎バス水族館出発
19:00	夜の水族館見学 きもだめし	14:30	徳島方面送迎バス到着 (道の駅日和佐)
20:45	星空観察 【曇り・雨】プラネタリウム	15:30	高知方面送迎バス到着 (はりまや橋観光BT)
21:00	寝床作り（寝袋）		
	シャワー浴		
22:00	消灯・就寝		

### 2. 事業の様子

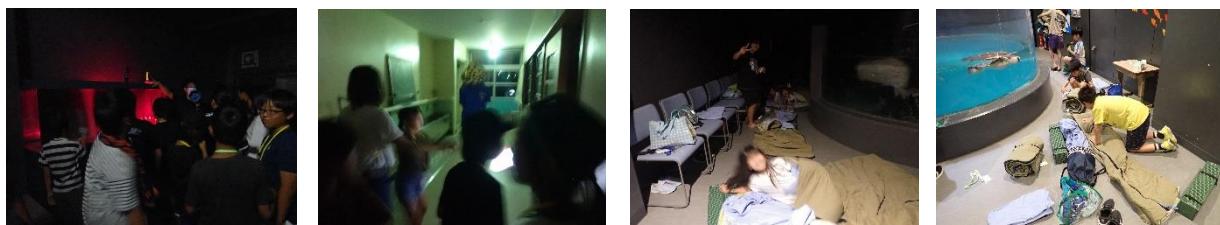
#### <1日目>

「サメいし作り」では、サメの歯を張り付けた名刺を作りました。「サメいし交換」では、むろと廃校水族館館長より名刺は初めて会った人に自分を知ってもらう為のツールであり、印象に残るための工夫が大事で「サメいし」は相手にインパクトを与えるとても有効なツールであることを教わりました。続いて自分で作った「サメいし」を使って参加者同士で「サメいし交換」を行いました。

た。初めはお互いに緊張した様子が見られたものの、徐々に楽しくなり館長や自然の家所長と名刺交換をする子供たちも現れるなど、楽しく「サメいし交換」を行うことができました。



夕食後の「夜の水族館見学」では、カメや魚たちの昼間とは違う夜の様子を知ることができました。「きもだめし」は、夜の校舎独特の雰囲気を体験しました。就寝もこの事業ならではの楽しい体験の一つです。水槽の周りに寝袋を敷き、カメやエイのすぐそばで寝ることができました。



### <2日目>

朝早く起床し、水族館近くの椎名漁港に大敷網の水揚げ見学に出かけ室戸の海で獲れる魚について学びました。朝食後の「プールで魚と泳ごう！」では、ライフジャケットを着用し、ブリやシュモクザメが展示されている屋外プールで一緒に泳いだり水中の様子を夢中になって観察するなど水遊びを満喫しました。「ウミガメの放流」では、ウミガメの計測をした後、近くの海岸で放流を行いました。取り付けたタグによって、世界中のどこで発見されても、この日室戸で放流されたウミガメだと分かるようになっていることを知りました。



### 3. 参加者の声

- ・楽しい企画ばかりだった。 ・名刺で色々な人と友達になれる。
- ・魚の解説はとても勉強になった。 ・室戸で獲れる魚の種類を知れた。
- ・もっと魚のことを知りたくなった。 ・魚と寝られてとても嬉しかった。
- ・本当に楽しくてまた参加したい。

#### 4. 成果と課題

##### ○ 成果

募集定員 30 名を大幅に超えるに 222 人の応募があり、50 人 × 3 回開催で 150 人に対応することができた。また、過去 20 人程度で実施してきたが、最大 50 人で実施できることが分かった。むろと廃校水族館と自然の家がコラボすることで、通常の登校（水族館利用）では経験できない特別な体験をより多くの子供たちに提供することができた。「プールで魚と泳ごう」は、今年度初めての試みということもあってか話題を呼び、テレビや新聞にも取り上げられたことで、本事業をより多くの人に知ってもらうことができた。

##### ○ 課題

夏休みに 3 回開催が限界か。または、連続開催（3 日間で 2 回開催）を 2 回行い、合計 4 回開催することも今後検討する。その場合は、他事業や水族館との調整が必要である。

会場の水族館の教室と水槽周りでの就寝人数は、50 人が限界。通路の確保や日程にゆとりを持たせることを考えるともう少し少ない方が好ましいが、水族館側はOKとの判断。

落選者と中止になった 3 回目の参加者に対しては、冬休み期間に同様の事業を計画する方向で検討する。

弁当のサイズが大きすぎるので、サイズダウンの依頼をするとよい。また、プログラムの内容等を調整し、最低でも 45 分は食べる時間を確保したい。

入浴（シャワー浴）に時間がかかった。星空観察の割愛または、就寝時刻 22 時を 22 時 30 分に変更するなど時間の調整をし、入浴時間の調整を検討したい。

## M キャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」（第4回・第5回）

#### 1. 事業の概要

##### ○事業の趣旨

むろと廃校水族館に宿泊し、研究者によるレクチャーや太平洋の定置網における体験等をとおして、海洋生物の生態や漁業等に興味関心を持つとともに室戸市や地球環境の素晴らしさに触れる。

##### ○事業期間

第4回目 令和7年1月5日（日）～1月6日（月）

第5回目 令和7年1月11日（土）～1月12日（日）

##### ○参加者（高知県内外の小学4～6年生）

第4回目 16名

第5回目 22名

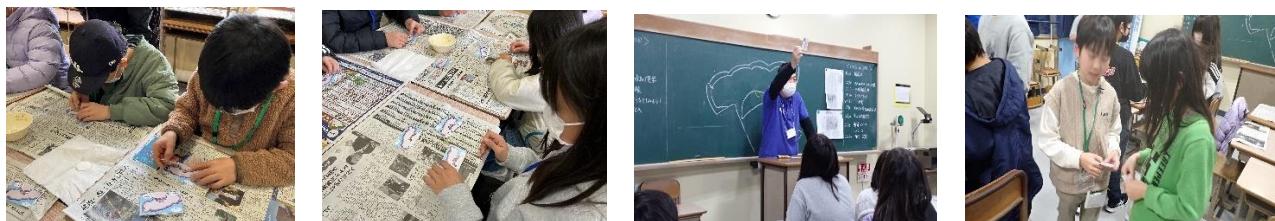
## ○活動日程

	1日目		2日目
12:30	送迎バス（高知方面）出発	5:30	起床・身支度
13:30	送迎バス（徳島方面）出発	6:00	大敷網水揚げ見学（漁港）
15:15	送迎バス むろと廃校水族館 到着	7:00	朝食
15:30	開講式	8:00	飼育員体験
15:50	サメいし作り・サメいし交換会	9:30	サメの解剖をしてみよう
17:00	水族館見学	11:30	昼食（朝どれ海鮮弁当）
17:45	夕食（むろと特撰弁当）	12:30	閉講式
18:30	イカスミで書き初めをしよう	13:00	むろと廃校水族館 出発
20:00	夜の水族館見学／シャワー浴	14:30	送迎バス（徳島方面）到着
21:00	寝床作り	15:30	送迎バス（高知方面）到着
22:00	水族館でお泊り（寝袋）		

## 2. 事業の様子

### <1日目>

開講式の後、「さめいし作り」からプログラムは始まった。シュモクザメの歯を1つ選び名刺に貼り付け、一人一人自分だけの名刺を作り上げた。作成後は参加者同士での「さめいし交換会」を行った。自分の名前や通っている小学校などについて情報交換を行いながら活動する中で、緊張感もほぐれ和気あいあいとした雰囲気へと変わっていった。



夕食にて「むろと特撰弁当」を食べた後、「イカスミで書初めをしよう」を行った。飼育員の方からイカの体の構造や炭袋について実際に解剖しながらのレクチャーを受け、イカスミを使って書初めをした。「イカスミってこんなに黒いんだ。」「本当の墨汁みたいに書けるんだね。」というような驚きの声もあり、子供たちにとっては貴重な体験にとなった。



1日目最後のプログラムは、「夜の水族館見学」を行った。それぞれの生き物の習性や特徴について非常に細やかなレクチャーがあり、明るい時間帯に見た生き物たちの様子との違いに子供たちは興味津々であった。「こんなに生き物のことが知れてうれしい。」「飼育員の方みたいに生き物に詳しくなりたい。」などの感想が聞こえた。活動後はシャワー浴と寝床準備を行った後、就寝し事業1日目は終了となった。水槽の近くに寝袋を敷いて寝ることができ、非常に嬉しい様子であった。

## <2日目>

事業2日目は6時30分に起床後、着替え・片付け・朝食を済ませ、むろと廃校水族館近くの椎名漁港にて「大敷網水揚げ見学」を行った。漁師の皆さんのが作業している様子や水族館では見られなかった生き物について詳しく知ることができた。見学後は水族館に戻り、記念撮影を行った。



「飼育員体験」では、水槽の清掃とカメへのえさやりの体験を行った。参加者はそれぞれの体験を楽しむとともに、「生き物を大切に育てるにはたくさんのことをしていいんだ。」「飼育員さんはこういう大変なことをいつも頑張っているんだ。」というように生き物を管理することの大変さや飼育員の方々の日々の作業や生き物を大切にしている思いなどに理解を深めていた。



続いて、最後のプログラムである「サメの解剖をしてみよう」を行った。まず始めにパワーポイントを用いたサメの体の構造についてのレクチャーを受けた後に解剖をした。一部の子を除き、生き物を捌いたり解剖したりすることが初めての参加が多く、血やサメ特有のアンモニア臭等に慣れず、数名離脱する場面もあったが、普段なかなかできない貴重な体験である「サメの解剖」をみんなで協力しながら行うことができた。参加者からは、「初めてこんな体験ができるよかったです。」「ふだんお父さんが捌いている魚たちとは体の中も大きさも全然違うことがわかったし、できてよかったです。」などの声が聞こえた。活動後はアンケート記入、昼食、閉講式を行い、事業は終了した。

### 3. 参加者の声

- ・魚たちの生態系を守りたいと思うようになりました。
- ・海の生き物の生活がよくわかったし楽しかったので、また参加したいです。
- ・サメの体の構造や飼育員さんのお仕事についてよく知れたのでよかったです。
- ・新しい友達ができたり、魚の普段見ることができない姿を見ることができて、とても楽しかった。サメの解剖がとてもよかったですのでまたやってほしい。
- ・またイベントに参加したいし、むろと廃校水族館にもまた来たいと思いました。
- ・ひとつひとつのプログラムがとても楽しかったし、いい経験になった。
- ・魚のことがよく知れたり、普段できないことができてとてもうれしかった。魚のことがもっと好きになりました。

#### 4. 成果と課題

##### ○成果

- ・夏休みに実施したMキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」の落選者や台風の影響により中止となった参加者の参加機会をつくることができた。
- ・イカスミの書初めやサメの解剖など、冬にしかできない水族館ならではの特別な経験を参加者に提供することができた。

##### ○課題

- ・サメの解剖を行った際に、サメ特有のアンモニア臭により気分を悪くする参加者が数名いた。最終的に全員で活動することはできたが、楽しみきれなかった部分もあると思う。そのため、次回実施の機会があった際には、臭いを防ぐことのできるマスクの用意や、換気のさらなる徹底等を行うなどして、より多くの参加者がより楽しく体験できるようにしていきたい。

## オリエンテーション合宿 in 室戸【むろとをタタキおこそうプロジェクト】

### 1. 事業の概要（個別参加型で実施）

#### ① 事業の趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探求する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを養う。

#### ② 実施期間

令和6年8月22日（木）～8月24日（土）

#### ③ 参加者

高校生7名（高知県1名・徳島県4名・千葉県2名）

#### ④ 活動日程

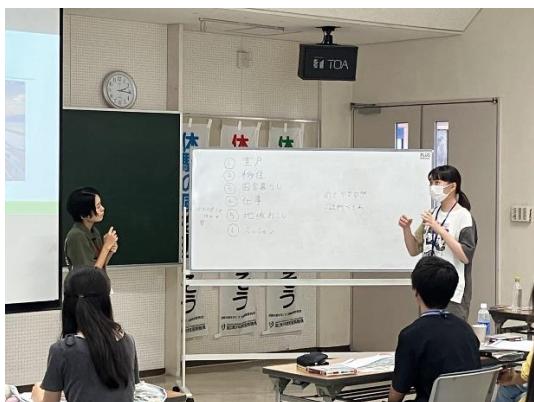
	8月22日（木）	8月23日（金）	8月24日（土）
午前		起床・朝食 講義・演習④「行動計画の基礎」 フィールドワーク②「地域課題の探究」 場所：吉良川の町並み、椎名地区	起床・朝食 フィールドワーク①「地域の魅力を発見」 【伝統！クジラ船競漕を体験しよう！】 講義・演習③「地域課題の探究」 【みんなでむろとをタタキおこそう！】
午後	受付（12:00～）・昼食 開講式・ガイダンス 講話「地域づくりの実践」 【わたしの見つめる、むろと】 講義・演習①「地域理解」	昼食【地元スーパーのおいしい！お弁当】 フィールドワーク①「地域の魅力を発見」 【むろと廃校水族館で学ぼう！】 講義・演習②「課題解決の基礎」 【むろと廃校水族館の、これまでとこれから】	昼食 発表② 講義・演習④「行動計画の基礎」 実践活動のためのガイダンス・閉講式 解散・バス出発（15:30）
夜	夕食【野外炊事体験：焼き肉！！】	夕食【むろとの魅力たっぷり！お弁当】 講義・演習③ 発表①「地域課題の探究」 【むろとを見て、体験して感じたこと】	

## 2. 事業の様子

### <1日目>

高知県、徳島県内全ての県立高等学校への広報により集まった5名と機構本部による関東圏への告知により参加した2名を合わせて計7名の参加者での事業実施となった。開講式・ガイダンスの後、講話「地域づくりの実践」【わたしの見つめる、むろと】にて、室戸市地域おこし協力隊の川口真委氏、遠枝澄人氏、石原光氏のお三方からお話をいただいた。それぞれの地域おこしのミッションに関わる取り組み・成果・課題や、地域の方々から上がってきた声など、地域に根差して活動する方のリアルな目線でお話を聞くことができた。この講話により、高校生の中で「地域おこし」へのイメージが具体的になっていたように思う。続く講義演習①「地域理解」では、地域おこし協力隊の方々の講話や「室戸市市勢要覧」等の資料を参考に、現時点での自分たちが考える室戸の魅力や課題を付箋に書いて共有し、整理した。それぞれの参加者の中で、翌日のフィールドワークにおける着眼点を見つけることができた。

講義終了後、夕食を兼ねた野外炊事研修体験を行った。食材の準備や火おこし、調理などそれを参加者が協力して実践し、和気あいあいとした雰囲気での活動となった。「普段来られないところにきて、いろいろな人出会うことができて、いい経験ができる3日間になりそうです。」という声も聞こえた。



### <2日目>

朝のつどいと朝食の後、講義演習④「行動計画の基礎」を行った。前年度までの探究アワードにおける高校生の実践活動の参考・地域おこしをするための具体的な着眼点や、考え方のプロセスを確認した。参加者の言葉で、魅力→推しポイント、課題→タネとキャッチャーに言い換えるようになった。「室戸のタネから花を咲かせたいね。」と話していた。

所からバスで出発し、午前中はフィールドワーク②「地域課題の探究」にて吉良川の町並みと椎名地区を訪れた。吉良川の町並みでは、町並み保存会会長である島巻努氏のガイドにより、町並みの歴史や文化、町並みを守る方々の思いについて理解を深めた。住宅にも入らせていただき、実際の暮らしや地域の方の声にも触れられることで、より身近に感じることができたのではないかと思う。参加者の中からは、「こんなところに住んでみたい」「こんなに素晴らしい町並みが多くの人々に知られていないのはもったいない」という声が聞こえた。続いて、椎名地区を訪れた。ここでは地域おこし協力隊の石原光氏にご案内いただいた。椎名地区は漁業が盛んな地域だが、高齢化や地場産業の担い手不足などが課題となってきた。地域の方々から届く声や実際の活動について詳細に教えていただいた。砂浜に移動し、石原氏が

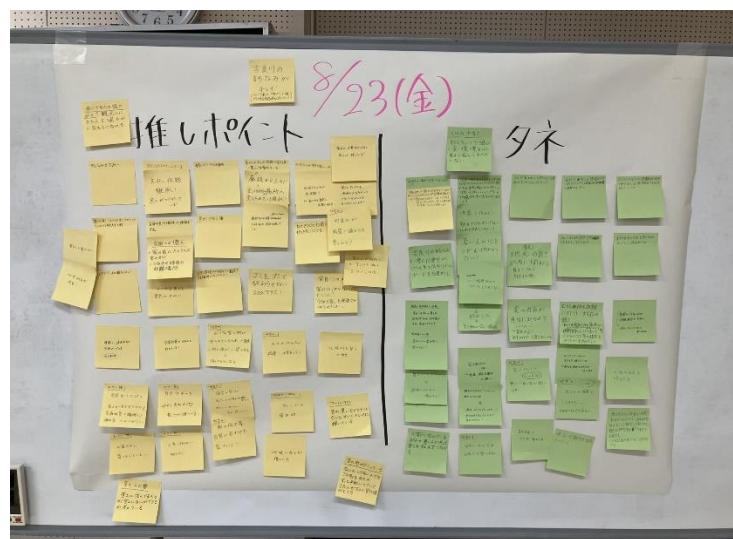
行っている、砂浜に流れ着いたシーグラスなどの漂着物を回収したものを使って作品作りをする「ビーチコーミング」の体験もさせていただいた。シーグラスを実際に見るのは初めてという参加者も多く、夢中になって活動する様子が見られた。活動後、「椎名集落活動センターたのしいな」内の集会スペースにて昼食を食べながら伝統的な漁具であるビン玉編み細工などにもふれることができた。



午後からはむろと廃校水族館にて活動を行った。フィールドワーク①「地域の魅力を発見」【むろと廃校水族館で学ぼう！】では館内を見学しながら水族館の展示がなぜこんなにも魅力的なのか、どのような工夫がなされているのかを考えた。学校と水族館の融合に感動しながら見学と考察を行っていた。見学後は、館内教室スペースにて講義演習②「課題解決の基礎」【むろと廃校水族館の、これまでとこれから】というテーマでむろと廃校水族館館長若月元樹氏からお話をいただいた。むろと廃校水族館開校までの道のりや、経営を含めいろいろな物事へ取り組む姿勢、今後の展望など、なかなか聞くことのできない貴重な内容が盛り沢山であった。何かをしようとするときは、経営的な視点が非常に重要になってくる。新たな価値の創出や経営に関心のある参加者もあり、皆食い入るように話を聞いていた。若月館長のお話を聞いたことで、地域おこしの活動への解像度が格段に上がったように思えた。講義の後には飼育員体験をさせていただき、飼育員の皆様のお仕事に触れて学び、たくさんの生き物とも触れ合うことができた。



帰所後、夕食を食べた。室戸で人気の道の駅であるキラメッセ室戸の楽市さんに弁当を依頼した。中身のほとんどが室戸の食材であり、非常においしく「こんなに美味しいものばかりなんて、室戸は最高ですね」と参加者も述べており、食でも室戸の魅力を存分に感じていた。夕食後は講義演習③・発表①「地域課題の探究」【むろとを見て、体験して感じたこと】を行った。フィールドワークを通じて考えたことや感想を共有した後に、自分たちが思う室戸の推しポイント（魅力）やタネ（課題）を付箋に書き出し意見を交わした。講義の終盤には、焚火を囲んで「室戸の推しポイントをより多くの方に知ってもらうには？」というテーマで語り合った。様々な意見を交わす中で、参加者個人の思いや背景など、焚火を囲んでいるからこそ出てくる言葉がたくさんあった。素の表情や言葉を出している参加者が多く、夏の夜ならではのよい時間となった。



### <3日目>

最終日は朝のつどいと朝食終了後、フィールドワーク①「地域の魅力を発見」【伝統！クジラ船競漕を体験しよう！】にて、「第34回土佐室戸鯨舟競漕大会」へ出場した。開会セレモニーから参加したため、室戸で実際に行われているイベントの雰囲気や、伝統を守る方々、地域を盛り上げようとする多くの方々

の気持ちに触れることができた。昔ながらの方法で櫓を漕ぐ古式部門でエントリーをしていたため、本当に進むのかどうか一抹の不安もあったが、参加者の頑張りや、地域おこし協力隊の皆様や乗船してくださった方々のおかげで無事に舟は進み、勝利することもできた。室戸の伝統と魅力を実際にやってみて感じることができ、喜びを分かち合うこともできた時間となった。

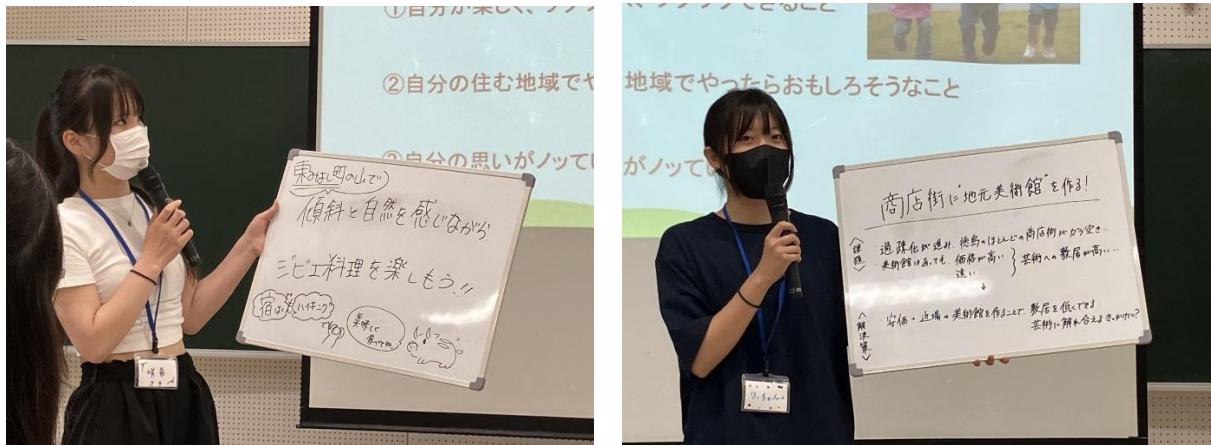


最後のフィールドワークも終了し、帰所後は講義演習③「地域課題の探究」【みんなでむろとをタタキおこう！】を行った。ここでは3日間の学びや経験を活かして、室戸をさらに盛り上げるためにどのようなアプローチを行うとよいかについてグループで考え、模造紙にまとめた。推しポイント（魅力）をさらに輝かせて室戸を盛り上げる方法、タネ（課題）から花を咲かせて室戸を盛り上げていく方法など、高校生ならではのアイデアを地域おこし協力隊の皆様と協議をしながら作り上げていた。昼食後、室戸をさらに盛り上げるためのアイデアを発表した。「室戸の魅力を発見・発信してもらえるようなフォトコンテストを開催する」「特産品どうしを掛け合わせたグッズ開発・販売経路の拡大」「地域の人々が集まれる機会を創出し、地域を内側から元気にする」「魚市場を作って雇用を創出する、漁業関係者同士の連携を強化する」など、いろいろな考えがでてきた。参加者同士の質疑応答では、「実現していくためにはどのような方に協力してもらうか」「コストはどれくらいかかりそうで、どのようにすれば回収できるか」など、具体的に話し合っていた。講師の方々との関わりを通して学んだことや考えてきたことが活かされたのではないだろうか。



講義演習としては最後になる、講義演習④「行動計画の基礎」では、室戸でのオリエンテーション合宿を通して得た着眼点や地域おこしのアイデアを使って自分の住む、又は通学している地域を盛り上げる方法を考え、発表した。先程まで室戸に向けていた視点を地元地域に移すということで、少し悩んでいる場面もあったが、参加者それぞれが自分なりの視点と意図と想いをもってアイデアを出した。例えば、

「ゼロからはじめる土佐和紙～オリジナルグッズを創ってみよう～」や「傾斜と自然を感じながらジビエ料理をたのしもう」など、それぞれの感性や地元地域の個性が表れた面白い考えが次々と生まれてきました。任意の活動にはなるが、それぞれが実践活動及び報告書作成に挑戦すれば、きっとすばらしいものになるだろうという期待がもてた。



講義の最後には、早稲田大学教授であり、全国高校生体験活動顕彰制度委員を務められている沖清豪氏からご講評と参加者への応援のお言葉をいただいた。①自分事となる課題をみつけよう②現在の自分にできる「解決策」を探して実行しよう③自分の将来・キャリアとつなごうという3点について、参加者の様子を見ながら作成してくださったプレゼンテーションをもとに語ってくださったため、参加者の心に深く響いたのではないだろうか。このような貴重な機会を参加者の皆さんには大切にしてもらいたい。

最後に、実践活動のガイダンスと閉講式を行い、令和6年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 室戸「むろとをタタキおこそうプロジェクト」は終了となった。



### 3. 参加者の言葉

- ・こういった活動は初めて行った。視野が広がりました。
- ・自分の人生においていい経験になった。室戸がこれから活躍することを祈っています。

- ・室戸という地域について深く学ぶことができた。
- ・これから自分の人生を変えられる気がします。
- ・自分がどれだけ自分の地元を知らないのかわかりました。これからはどんどん自分で考え、行動していきたいです。
- ・知識と体験を多く得られる貴重な経験ができてよかったです。

#### 4. 事業の成果

- ・高知・徳島だけでなく千葉県から2名の参加があり、参加者同士の関わりがより幅広いものとなった。
- ・個人募集型で募集したことにより、参加者の意欲が高く、活動や話し合いも充実したものとなった。
- ・多くの方々に講師としてお力添えをいただいたことにより、参加者にとって多くの出会いと関わりを生み出すことができた。
- ・「第34回土佐室戸鯨舟競漕大会」に出場したことにより、伝統を実際に肌で感じることができた。また、実際に地域おこしに繋がるイベントの一員となる経験ができた。
- ・参加者から、「自分の将来やキャリアに繋がる」という感想がでてきた。
- ・活動や話し合いの様子から、参加者にとって「学び」や「気づき」の多い3日間となった。

#### 5. 事業の課題

- ・募集目標が30名のところ、参加者は7名だった。広報の手段等、検討し来年度は参加者数を伸ばしたい。
- ・フィールドワークにおいて、まだまだ訪問したいが実現できないところもあった。カリキュラムとの兼ね合いや時間の使い方についても検討し、より充実したフィールドワークを行えるようにしたい。
- ・フィールドワーク以外での講義演習は国立室戸青少年自然の家の研修室で行うことがほとんどであった。例えば室戸世界ジオパークセンターのセミナールームを借用して講義演習を行うなど、国立室戸青少年自然の家も含め室戸のより多くの場所で活動できるとよいのではないか。

## 令和6年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

### くろしお祭り2024in とろむ

#### 1. 事業の概要

##### ○ 事業の趣旨

高知県東部地域の豊かな自然・歴史・文化を体験する活動、宿泊体験、世代間交流などを通して、青少年のチャレンジ精神、創造性、社会性を育むとともに、国立施設として新たな価値を創造し、地域活性化に貢献する施設である（あり続ける・生まれ変わる）ことを発信する事をねらいとする。

##### ○ 実施期間

令和6年10月5日（土）～10月6日（日） 1泊2日

##### ○ 対象者・参加者数

小学生以下を含む家族またはグループ（保護者同伴のもと）

日帰り：460名 宿泊：18家族68名

##### ○ 活動プログラム

	1日目		2日目
8:00	会場準備	6:00	起床
9:30	開会式（海の駅とろむ） 体験・飲食・発表ブースなど	7:15	朝のつどい
14:00	閉会式（海の駅とろむ）  ※以下宿泊利用者プログラム	7:30 8:45 9:30	朝食 退所点検 遊びリンピック
16:00	入所式、オリエンテーション	10:30	移動（室戸第2駐車場へ）
16:45	配宿（荷物移動・ベッドメイキング）	11:00	うみがめ放流（奈良師・元海岸）
17:45	野外炊事（カツオのたたき）	12:00	退所式・解散
19:30	キャンプファイア		
20:30	入浴		
22:00	就寝		

## 2. 活動の様子

### <1日目>

今年のくろしお祭りは会場を「海の駅とろむ」にて開催をし、室戸市内外の各種団体、近隣の国立施設設の協力を得て、3つの団体による後援、12の団体による体験ブース、6つの団体による飲食ブース、4つの団体による踊りや演奏、トークショーなどによって構成され、メインイベントとして高知県沖で保護され、治療を受けたうみがめの放流を行い、来場者に自由にブース巡りをしてもらった。地元の子どもの発表や様々な体験ブースを行っていた。



くろしお祭り終了後、自然の家にて宿泊者限定プログラムを開催した。入所式後、夕食にてかつおのたたき体験を行い、普段体験できない藁焼きを体験して、燃え上がる炎に参加者も盛り上がっていた。

夜のキャンプファイアでは、法人ボランティアが企画したレクリエーションやキャンプソングで楽しみ、家族間での交流を行うことが出来た。



### <2日目>

法人ボランティアが6つのブースを計画して遊びリンピックを行った。子どもだけでなく保護者も積極的に参加し、自己ベストを目指してブースを回っていた。参加者からはもう一度やりたいという声も上がった。

遊びリンピック終了後「奈良師・元海岸」へ移動し、元小学校の在校生と一緒に海岸にてうみがめ放流を行った。1日目とは違い、砂浜で行ったためうみがめが海へ力強く歩く姿を見て、自然と「頑張れ」といった声が上がった。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・キャンプファイアやうみがめ放流の際の誘導が親切だった。
  - ・遊びリンピックが楽しかった。もう少しやりたかった。
  - ・非日常を体験することが出来た。
- ▲かつおのたたきを作るのに時間がかかり 30 分ほど待ち時間があった。
- ▲ボランティアに質問をしても回答が分からぬということがあった。
- ▲メールでの案内が分かりづらかった。

#### ○ 事業の成果

- ・日帰り参加者数 460 名、宿泊参加者 18 家族 68 名の方に参加いただき、例年に比べて多くの方に来場していただいた。来年度には本所 50 周年ということもあり多くの方に認知していただくため会場を「海の駅 とろむ」で開催を行った。
- ・地元の飲食店やキッチンカーを誘致することで午後の時間帯でも参加者が残って活動を行っていた。
- ・子ども遊びリンピックをもっと長い時間やりたいという声が上がった。

#### ○ 事業の課題

- ・会場の準備や設営に時間がかかり、開始時刻が遅れることがあったため開始時刻を遅らせるなどの対策を考える必要がある。
- ・宿泊プログラムとして野外炊事でかつおのたたきを実施したが、道具が不十分であったため参加者に待機してもらう時間があった。
- ・アンケートの記入時間が少なかったため時間に余裕を持たせたスケジュールを組む必要があった。

## 「防災キャンプ in 室戸」

### 1. 事業の概要

#### ①事業の趣旨

南海トラフ巨大地震のような巨大地震を想定しながら様々な体験活動を行い、地震や津波についての知識を得たり、自分たちにできることを考えたりすることで、自助・共助の力を育む。

#### ②実施期間

第1回目 令和6年10月26日(土)–10月27日(日)

第2回目 令和6年11月23日(土)–11月24日(日)

#### ③活動場所

室戸世界ジオパークセンター

室戸市佐喜浜町都呂津波避難シェルター

#### ④参加者(高知県及び徳島県の小学4–6年生)

第1回目 22名(高知県15名、徳島県7名)

第2回目 24名(高知県19名、徳島県5名)

### 2. 事業の様子

#### 【1日目】

高知県内の小学校及び徳島県の沿岸地域の小学校への広報により、定員(20名)の2倍を超える54名の応募があり、2回に分けて事業を実施した。開講式後の【みんなで考えよう】にて、「地震」「津波」「防災」についてそれぞれの考えを共有した後、「自助」「共助」について学習した。続く【南海トラフ巨大地震や津波について知ろう】では、講師である室戸ジオパーク推進協議会の柿崎氏、杉尾氏により、クイズ形式で地震や津波、室戸の地形的特徴についての学習が展開された。地震がおこるメカニズムや普通の波と津波との波長の違い、災害への備え等について、前向きにクイズに参加し学びを深める様子が見受けられた。さらに、【津波をおこして実験しよう】において津波の現象を観察した。「これが実際にあいたら大変だ。」「こうやって第2波がくるんだ。」「地震があいたらすぐに逃げないと。」などの声が聞こえた。



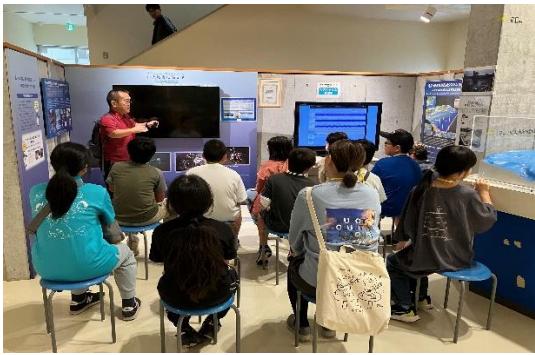
室戸世界ジオパークセンターでの活動終了後、日本唯一の津波避難シェルターである室戸市佐喜浜町都呂津波避難シェルターへ移動した。駐車場にて下車後、実際の避難を想定しながら移動を行った。「5分以内にシェルター内に全員避難をする」という目標のもと、津波避難シェルターを発見し中に入り水密扉を完全に閉めるまでの作業を全て参加者が行った。避難は約4分で完了した。「最初は開け方がわからなかったからドキドキした。」「もっと人が逃げてきいたら大変だと思う。」等の感想や「自分たちの住んでいる地域の避難場所や避難の仕方を知っておかないといけない。」という振り返りが出た。シェルター内外の設備の見学後、ランタンの明かりを囲んでグループワークを行った。24時間の避難生活を想定し、「どのようなものが必要になりそうか」「どんなことに困りそうか」「どのように過ごせばよいか」を話し合い、発表した。多くの意見が出る中で、日頃から災害に備えておくことの重要性や避難生活では周りに配慮をして過ごし、助け合うことなど、自助・共助の大切さについて感じ、考えていた。終了後、各グループに水を支給し、「1班20Lで明日の朝まで過ごす」ことをノルマとした。水の出し方や手を洗うとき、うがいをするときの水の量に工夫をし、限られた水を大切に使おうとする様子が多く見られた。寝床づくりでは、少ないスペースでより多くの人が快適に休めるよう、寝袋の置き方を工夫し、参加者全員が体を伸ばして寝ることができた。



## 【2日目】

起床後、津波避難シェルターで一晩過ごして考えたことや感じたことを振り返った。「水が自由に使えないことがこんなに大変なんだと知った。」「本当の避難生活はもっと大変だと思う。」「家のベッドで寝れるのはありがたいと思った。」「普段の生活がとても便利で、すごくいいものなんだと感じた。」など、避難生活の大変さを感じたり、日頃何気なく使っているものや過ごしている生活のありがたさについて考えたりしていた。朝食は防災食体験を行い、「マジックライス」と缶詰を食べた。「水を入れておくだけでおいしいご飯が食べられるのはすごい。」「私もお母さんに言って防災食を準備しておきたい。」などの声が聞こえた。

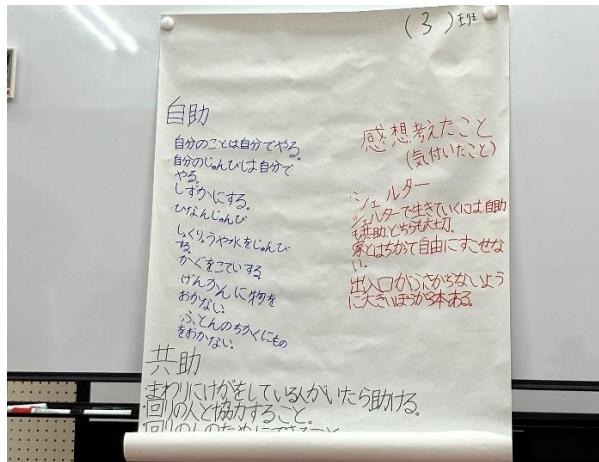
清掃を終え、室戸世界ジオパークセンターへ移動した。【ジオパークセンターを体験しよう】では、講師の二人から地震の発生を感じし情報を伝達するシステムやプレートの動き等の説明があり、地震や津波への対策や取組についてより詳細に学ぶことができた。



続いて、室戸世界ジオパークセンター前の浜に移動し、磯観察と水辺からの避難訓練を行った。拡声器でのアナウンスを合図に柿崎氏の先導で室戸世界ジオパークセンターの裏山にあるコミュニティーセンターへ5分以内に避難をした。前日の津波シェルターへの避難訓練と比べ、「場所が違うと逃げるところも避難の仕方も違うんだ。」と気付きを発表していた。



振り返りでは、1泊2日の体験や考えたことをもとに、自分たちがこれからやっていきたい「自助」「共助」について模造紙にまとめ、発表した。共助について話している中で、「今回のキャンプで学んだことを家族や友達に伝えて、みんなで防災をしていけるようにしたい。」という言葉がでてきたことが非常に印象深かった。





昼食後、閉講式を行い、令和6年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業「防災キャンプ in 室戸」を終了した。

### 3. 参加者の言葉

- ・自助や共助の大切さがわかった。(4年生・女子)
- ・避難生活を体験して、日ごろの準備や水、電気が大切なんだということがわかりました。毎日の生活が一番いいものなんだなと思った。他にも地震や津波に関する施設を見に行きたいです。(4年生・女子)
- ・津波避難シェルターには、人の命や安全を守るための設備や備蓄品があることを学びました。このことをみんなに伝えたいです。(4年生・男子)
- ・今回のキャンプで地震や津波が起きた時の避難場所や避難の仕方がわかった。出かけているときに地震が起きた場合の避難場所も知っておいたほうがいいと思った。(5年生・女子)
- ・日本でひとつしかない津波避難シェルターで水をあまり使わず、お風呂にも入らない生活をした。もしとても強い地震がきたら水も電気も使えなくなるから、自分で食料や水を持ってこないといけないということがわかった。(5年生・男子)
- ・津波避難シェルターで宿泊して、今の日常がどんなに大切なのかわかった。今回学んだことをいかして本当に災害が起こった時に冷静に判断できるようにしたいし、防災バックの確認も忘れず、自分や周りの人の命を守りたい。(5年生・女子)
- ・防災についてくわしく知りたいと思ってこのキャンプに参加しました。私は地震について、何もかも壊してしまって悲しく苦しいものだと思っていたけれど、地震によって地形などが変わり、地震がもたらしてくれる恵みもあることを知りました。みんなで学んだことを家族や周りの人々に伝えていきたいなと思いました。(6年生・女子)

### 4. 事業の成果

- ・室戸市佐喜浜町都呂津波避難シェルターでの避難生活体験や室戸世界ジオパークセンターでの学習など、室戸でだからこそ行える防災学習が行えた。
- ・参加者にとって、災害のおそろしさについて考えるとともに、日常のありがたさや日頃の備えの大切さについて気付き、感じるきっかけとなった。
- ・活動中のつぶやきやアンケートの記載から、参加者の防災意識の高まりが伺えた。また、自分だけではなく

家族や周りの人も助けられるようにしたいと考えられるようになった児童も多かった。

- ・室戸ジオパーク推進協議会、室戸市防災対策課、室戸市生涯学習課等、幅広く連携し事業を実施することができた。

## 5. 事業の課題

- ・地震や津波、室戸の地形的特徴についての解説が「むずかしい」「細かくイメージできない」と感じる4年生児童がいた。一人一人がより具体的に多くのことを学ぶことができるよう、次回実施の機会には、資料の提示の仕方や説明の文言に工夫を施していきたい。
- ・アンケートやグループ活動でのワークシートを確認すると、実際に聞き取ることのできていなかった言葉や思いがたくさんあった。参加者の子どもたちが意見を述べたり、自分の考えを発表する場をより多く設ける必要がある。

## 令和6年度 大学生のためのボランティア活動推進事業

# 「つくってあそぼう！わくわくキャンプ～冬の大冒険～」

### 1. 事業の概要

#### ①企画・運営

国立室戸青少年自然の家所属の法人ボランティア

#### ②事業のねらい

仲間たちとともに課題に取り組んだり 1つの作品を作り上げたりする体験をとおして、協働する力や自己肯定感を育む。

#### ③実施期間

令和6年12月14日（土）－12月15日（日）

#### ④活動場所

国立室戸青少年自然の家

#### ⑤参加者

チラシやホームページを見て応募をした、高知県内の小学4－6年生 30名

### 2. 事業の様子

#### 【1日目】12月14日（土）

高知県内の小学校への広報により集まった小学4－6年生30名の参加者での事業実施となった。開講式と昼食の後、活動が始まった。「アイスブレイク」では、自己紹介ゲームや人間知恵の輪などのゲームを通して緊張がほぐれたり、同じ班の仲間同士で楽しんだりしている様子が伺えた。次に「宝物は誰の手に！？ミッションウォークラリー！」を行った。5班に分かれた参加者は、所内各所に散りばめられた、ボランティアリーダーからのお題を班で協力しながら制限時間以内にゴールを目指した。お宝（木工工作や手形アートの装飾品）のゲットを目指して活動に取り組む中で、コミュニケーションを取り、協力しながら楽しむことができていた。



夕べのつどいと夕食の後、「何ができるかな？木工工作」を行った。木の枝やドングリなどの材料やミッショナリーウォークラリーでゲットした装飾品を使って、思い思いに海の生き物をテーマにした作品を作った。ボンドやグルーガンなどの限られた道具を声を掛け合ったり譲り合ったりしながら、協力し合って作業を進めている様子が見られた。鑑賞の時間には、班内でお互いの作品のすてきなところを伝え合う時間を設定した。この時間を通して、それぞれの参加者が嬉しさや達成感を得ることができた。



## 【2日目】12月15日（日）

朝のつどいと朝食の後、「みんなで完成させよう！手形アート」を行った。画用紙を繋ぎ合わせた大きな台紙に、参加者が海をイメージしながら好きな色を使って手形を押していった。活動の中で、「○○ちゃんはどこに押したい？」「ここに来ると押しやすいよ」など、お互いに声を掛け合ったり気遣い合ったりしながら活動しているのが印象的であった。班ごとに手形を押した台紙を1つに合わせると、とても大きく綺麗な手形アートが出来上がった。5つの台紙を合わせた瞬間には、大きな歓声があがり、完成を喜んだ。ふり返りの時間には、ボランティアから価値づけを行うとともに、参加者が事業に参加した感想や考えたことの発表を行った。「みんなで協力していろいろな活動ができてよかったです、みんなでやるからこそ楽しいことが多かった。」「参加して、いろいろな人と出会って友達になったり、団結したりできたのがすごくうれしかった。」などの声が聞こえた。



### 3. 参加者の声

「人と人との協力で新しいことを知って、たくさん友達ができてよかったです。」4年生・女子

「室戸ボランティアリーダーのイベントがまたあるなら参加したい。」4年生・女子

「このキャンプで、いろいろな人と協力すると、たくさんの友達やすてきなものを作れるということがわかったので、このことを思い出しながら生活をしていきたいです。」4年生・女子

「5000円とは思えないほど楽しめたし学べたしうれしかったし、とても楽しい思い出になってよかったです。」4年生・男子

「いろんなことを学んで、特に学んだことは団結力だと思います。これからもこのキャンプでもこの団結力を班と一緒に築いていきたいと思います。次のキャンプも楽しみにしています。」5年生・女子

「協力する大切さがわかりました。私も大学生になったら、このようなイベントを作ってみたいと思いました。」5年生・女子

「友達と協力していろいろなことができる事や、人は人との関わりでいろいろなものを生み出していくこと、人はやっぱり人のつながりがないと生きていけないと学びました。」6年生・女子

「初めは、友達とか少なくて、一人でのんびりするほうがよかったですけど、友達と多く接することで、友達とわちゃわちゃするのも楽しいと思った。」6年生・女子

### 4. 成果と課題

#### 【成果】

・協力することの楽しさや素晴らしさについて言及したり、達成感を感じたりしている参加者が多く、事業のねらいを概ね達成することができた。

・逐一情報共有等を行なながら、様々な事態に柔軟に対応し、安全かつスムーズに事業を運営することができた。

・企画から運営にいたるまで苦労することも多かったなかで、積極的にミーティングや試行を行い、事業をやり抜いたことで、ボランティアリーダーにとって大きな成長の機会となった。

#### 【課題】

・アイスブレイクを楽しい雰囲気で行うことはできたが、緊張もあり難しく感じている参加者もいた。さらにシンプルで分かりやすく楽しめる内容であれば、よりよいアイスブレイクとなつたのではないだろうか。

・参加者が協働を意識できるよう、各プログラムにおいて作戦タイム等の話し合いの時間を積極的に設定していた。話し合いは進んでいたものの、特定の参加者の意見が強くなっている場面も見受けられた。参加者に委ねる部分も大切だが、もう少し積極的に助言やファシリテートを行うことで、よりよい話し合いになったのではないだろうか。

## 室戸で先取りお正月キャンプ！

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

室戸市内の小学生に日本の伝統的な文化に触れ、普段学校や家庭では体験できないプログラムを体験する機会を提供する。

#### ○ 実施期間

令和6年12月26日（木）～12月27日（金） 1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数

室戸市内の小学4～6年生（募集定員30名程度）

参加者7名

#### ○ 活動プログラム

	1日目		2日目
11:00	開講式	6:30	起床
11:30	アイスブレイク	7:30	朝のつどい
12:00	昼食	7:45	朝食
13:00	しめ縄作り	8:45	退所点検
16:00	ミニ門松作り	9:00	自然の家発
17:00	夕べのつどい	9:30	四十寺山ハイキング（登山）
17:15	夕食	11:00	昼食
18:30	焚き火体験	11:30	四十寺山ハイキング（下山）
20:00	入浴	12:30	アンケート記入
21:30	消灯・就寝	13:00	閉講式
		13:30	解散

## 2. 活動の様子

### <1日目>

初日には「しめ縄作り」と「ミニ門松作り」を実施した。しめ縄作りでは、研修指導員を講師に招き、しめ縄の由来から説明していただき、藁の編み方や飾りつけの仕方などを教えてもらいながら参加者は慣れない手つきで藁を編んでいた。ミニ門松作りでは自分たちで松の枝を選定して、全体のバランスを見ながら飾り付けを行っていた。自分だけの門松を作ることができ、「玄関の前に飾る！」や「親に自慢する！」などの声が上がった。



夜には焚き火体験を実施した。キンドリングクラッカーを用いて、火付け用と焚き木用に分け、参加者同士で協力して薪割りを行った。焚き火では火を囲みながら、翌日の四十寺山のことや、年末年始に何をするのかなどの話をした。



### <2日目>

2日目には室戸市内にある四十寺山へハイキングを実施しました。初めて登山をする児童や何度も登山している児童がいたが、思ったよりも大変だったという声が上がった。また、休憩をしながら道で生えている椎の実や蓬萊竹などの植物の説明を聞き、四十寺山の植生などを勉強した。頂上では室戸岬をはさんで土佐湾と太平洋を一望でき、「景色がとてもよかったです！」「山頂で食べるご飯がおいしく！」という声が上がっていた。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・しめ縄の作り方を知ることが出来てよかったです。
- ・四十寺山に登ってみていろんなことを学ぶことが出来た。
- ・友だちが増え、早めに正月を楽しむことが出来た。

#### ○ 事業の成果

- ・参加者（7名）へのアンケートによると、「全体を通しての満足」は満足が7人であり、満足度は100%となった。
- ・しめ縄作りや門松作りを通じて日本の伝統的文化に触れることができた。
- ・地元の山の植生を直接見ながら登山することが出来たため、意欲的に登山することができた。

#### ○ 事業の課題

- ・対象を室戸市内の4～6年生にしたため応募人数が7名となってしまった。対象を室戸市内に絞るのではなく、高知県東部もしくは従来通り募集をかけたほうが応募人数を獲得することができるを考える。
- ・比較的活動プログラムにゆとりを持たせたスケジュールのためスムーズに行えることが出来たが、間延びしてしまう場面があったため、活動内容を見直すことが必要と考える。

## イングリッシュキャンプ

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を高める。

(外国人講師の活用による、質の高い外国語のコミュニケーション SDGs 対応目標 4)

#### ○ 実施期間

令和7年2月15日（土）～2月16日（日） 1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数

小学4～6年生（募集定員20名）

参加者26名 ※応募者多数のため定員を増員

#### ○ 活動プログラム

	2月15日		2月16日
9:30	高知方面送迎バス出発（はりまや橋観光BT）	6:00	起床
10:00	徳島方面送迎バス出発（道の駅日和佐）	7:30	朝のつどい
12:00	自然の家到着	7:45	朝食
12:15	昼食	9:00	ミッショングーム
13:00	開講式・入所オリエンテーション	10:40	工作活動・質問タイム
14:00	英語で自己紹介・パスポート作り	12:00	昼食
15:00	イングリッシュフィールドフォトビンゴ	13:00	閉講式
17:00	夕べのつどい	13:30	自然の家発
17:15	夕食・自由時間	15:30	徳島方面送迎バス到着（道の駅日和佐）
18:30	キャンドルファイア		
20:00	入浴	16:00	高知方面送迎バス到着（はりまや橋観光BT）
22:00	就寝		

### 2. 活動の様子

国際交流専門員1名と外国指導助手4名の計5名の講師をお招きし、各班に1名の外国語指導助手を配置して各活動を行った。

#### <1日目>

初日は、まず「英語で自己紹介・パスポート作り」を実施した。パスポート作りは、子どもと外国語指導助手にそれぞれ各国のスタンプをもたせ、会話を行うとスタンプがもらえる活動である。この活動を行うことで、子ども同士、また子どもと外国語指導助手との会話が増えるきっかけとなった。休み時間も意欲的に外国語指導助手に関わる子どもの様子が見られた。

次に、「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」を実施した。地図を頼りに、問題の7か所の写真が撮影されたポイントを見つけ、クイズに回答する活動である。全てのクイズは外国語の3択クイズで、班に帯同する外国語指導助手に外国語で質問することでヒントが得られる仕様とした。自然豊かな所内を散策しながら行う活動であるため、参加者の緊張もほぐれ、のびのびと活動する様子が見られた。

夜間には、「キャンドルファイア」を実施した。それぞれの講師に、1つずつ外国語を用いたレクリエーション活動を提供していただいた。キャンドルを囲みながら、ゲームや歌、ダンスに興じることで、外国語に親しむ姿が見られた。



## <2日目>

2日目は、初めに「ミッションゲーム」を行った。地図に示されたポイントを訪れ、各ポイントで指示されたミッションをクリアしていく活動である。外国語でのコミュニケーションを求めるミッションに加え、長縄やフラフープを用いた身体を使うミッションも取り入れた。初日に実施した「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」より難易度を下げたことで、全グループが全てのミッションをクリアし、喜び合う姿が見られた。

最後に、「流木クラフト」を行った。室戸岬に流れ着いた流木を紙やすりで磨き、キーホルダーを作る本所の研修支援プログラムである。外国語の説明の後、各々が制作に取り組む一方で、外国語指導助手とのコミュニケーションを楽しむこともねらい、実施した。どこからやってきたのか分からない流木を磨きつつ、遠く離れた外国にも思いを馳せながら、世界に一つのキーホルダーを作ることができた。

その他、食事も同じ班のメンバーでとったり、空いた時間には身体を動かしたりして遊んだりしたことで、参加者同士、また参加者と講師との仲も深まり、充実した1泊2日となった。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・ 行く前は「英語をちゃんと話せるかな…」「友達できるかな…」ととても不安な気持ちでいっぱいだったけど、実際にみんなとキャンプをしてみて、いろいろな子と友達になったり、少しだけ英語の単語や文を覚えられたりして、とても楽しい時間を過ごせました。この経験を活かして、将来の役に立てたいです。
- ・ とても楽しかったです。もっと英語を学んで、読み書きができるようになりたいです。新しい友達も何人もできて嬉しかったです。また参加したいです。
- ・ 前よりも英語がものすごく気軽に使えるなと思えるようになった。友達と一緒に英語を読んで

解く問題が楽しかった。

- ・ 外国人の人と言葉だけで通じるのではなく、表情も使いながら接するといいとわかった。みんな優しくてよかったです。来年もやりたいです。

#### ○ 事業の成果

- ・ 事業の事前及び事後に行った「令和6年度国際交流事業参加者アンケート」によると、全ての問い合わせにおいて、肯定的回答（1：とても思う、2：少し思う）の割合が、事前より事後の方が高くなつた（ただし、2日目は不参加となった参加者の回答（未回答）は考慮していない。）。
- ・ 8つの問い合わせのうち、5つの問い合わせにおいて、肯定的回答の割合が100%となつた。
- ・ 以上のアンケート結果から、本事業は参加者のグローバル人材を志向することに寄与することができたと考える。
- ・ 本所のアンケートにおいても、参加者の満足度は100%であった。
- ・ 記述式アンケートによると、本事業で開発した「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」が最も楽しかったという声が多かった。難易度が参加者の実態に即していたものと考える。

#### ○ 事業の課題

- ・ 1班あたり6～7人の参加者及び1名の講師で事業を展開したが、ある講師からは1班あたりの人数が多いのではないかという指摘があった。当該講師の班に個別に支援を要する参加者がいた影響が大きかったようである。今後は、事前のアンケート調査で参加者の実態把握を丁寧に行って班編成を行ったり、班の構成人数を5～6人に留めたりする等の対応を検討するとよい。
- ・ 講師との振り返りの際に、「イングリッシュフィールドフォトビンゴ」は、「ビンゴ」の要素を省いた方が参加者にとってルールを理解しやすくなるのではないかという指摘があった。本所で提供しているプログラム「フィールドフォトビンゴ」をアレンジした活動であったためビンゴの要素を取り入れたが、外国語に親しませることを目的とするプログラムを提供するのであれば「ビンゴ」の要素を省くことも一考の余地がある。
- ・ ミッションラリーは、やや難易度が易しいという感想が多く寄せられた。その分達成感を味わうことができた参加者がいた一方で、物足りなさを感じた参加者も複数いた。今後今回同様小学校4～6年生を対象にミッションラリーを行う際には、ミッションの難易度を上げる必要があると考える。もしくは、ミッションの難易度を複数用意することで幅広い年齢層に対応するプログラムにできると考える。

# 室戸ボランティアリーダー活動報告

## 1. 在籍数（登録者）

4回生 8名	男子 3名	女子 5名
3回生 17名	男子 4名	女子 13名
2回生 22名	男子 7名	女子 15名
1回生 13名	男子 9名	女子 4名
社会人 7名	男子 1名	女子 6名

## 2. 活動一覧

事業名	参加リーダー数
室戸ファミリープログラム	4名
Mキャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう」	2名
くろしお祭り 2024in とろむ	12名
防災キャンプ in 室戸①	4名
防災キャンプ in 室戸②	4名
作って遊ぼうわくわくキャンプ(ボランティア自主企画)	16名
室戸で先取りお正月キャンプ	3名
イングリッシュキャンプ	6名
9月リーダートレーニング	8名
11月リーダートレーニング	10名
3月リーダートレーニング(四送会)	27名

## 3. 表彰

法人ボランティア表彰 2名 (高知大学 2名)

# 活動プログラム実施回数・指導状況

大分類	小分類	実施回数	利用者数	指導回数	指導を受けた人数	指導者数			
						研修指導員	職員	ボランティア	合計
登山・ハイキング・散策	所内散策	25	280	0	0	0	0	0	0
	合計	25	280	0	0	0	0	0	0
水辺の活動	シーカヤック	34	1198	34	1198	0	75	0	75
	磯観察	17	725	17	725	0	41	0	41
	合計	51	1923	51	1923	0	116	0	116
炊飯・生産活動	野外炊事（カレー）	56	2605	55	2562	0	88	0	88
	合計	56	2605	55	2562	0	88	0	88
創作・制作活動	七宝焼き	2	45	2	45	0	3	0	3
	焼き板工作	4	99	4	99	0	6	0	6
	流木クラフト	22	1,328	20	805	0	33	0	33
	合計	28	1472	26	949	0	42	0	42
ゲーム・レクリエーション活動	フィールドフォトビンゴ Comoact version	4	76	4	76	0	6	0	6
	キヤンドルファイア	24	1186	0	0	0	0	0	0
	スコアリエンテーリング	5	693	5	693	0	6	0	6
	冒險の森遊び	12	229	0	0	0	0	0	0
	おもしろ自転車	31	490	0	0	0	0	0	0
	キャンプファイア	8	436	0	0	0	0	0	0
	ナイトハイク	8	279	0	0	0	0	0	0
	室内フォトビンゴ	6	251	5	180	0	6	0	6
	ロープワーク	5	109	5	109	0	7	0	7
	基地づくり遊び	5	148	5	148	0	10	0	10
	アートフォトビンゴ	3	68	3	68	0	4	0	4
	フィールドフォトビンゴ Long version	6	487	6	487	0	11	0	11
	フィールドフォトビンゴ Short version	2	51	2	51	0	5	0	5
	合計	119	4503	35	1812	0	55	0	55
歴史・文化、音楽・芸術活動	鯨館見学	2	70	0	0	0	0	0	0
	合計	2	70	0	0	0	0	0	0
自然観察活動・環境教育活動	室戸岬探勝	14	706	7	496	0	8	0	8
	ジオパークセンター見学	20	672	0	0	0	0	0	0
	ジオパークフォトビンゴ	1	28	1	28	0	3	0	3
	イルカの観察	6	167	0	0	0	0	0	0
	廃校水族館見学	27	1195	0	0	0	0	0	0
	合計	68	2768	8	524	0	11	0	11
総合計		531	17,065	271	10,380	0	416	0	416

# 管理運営報告

## 1. 職員の主な研修・講習等

- 「新任職員研修」 令和6年4月3日  
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/ 3名参加)
  - ・所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明等
- 「海活動時における避難方法に係る研修」 令和6年4月22日 (2名参加)
  - ・避難経路及び避難場所の実地確認、避難誘導の方法について説明
- 「救急救命・AED講習会」 令和6年5月18日 (18名参加)
  - ・室戸市消防署職員による講義及び実践練習
- 「熱中症予防研修」 令和6年7月19日 (16名参加)
  - ・熱中症の発生要因、予防方法、症状への対処方法について説明
- 「避難・消火訓練」
  - 第1回 令和6年6月28日 (16名参加)
  - 第2回 令和6年11月21日 (14名参加)
  - ・室戸市消防署職員の立ち合いのもと、利用団体が宿泊時の火災発生を想定した避難訓練  
消火器を使っての初期消火の実地訓練

## 2. 令和6年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

日 時 令和7年3月19日 (水) 14時から  
場 所 国立室戸青少年自然の家  
開催方法 オンライン会議

## 3. 施設整備 (主なもの)

### ○漏水による被害復旧

令和6年12月22日、正午頃に野外炊事場の地中に埋設されている水道管の接合部分が何らかの原因で外れたことにより漏水し、施設断水の状況が発生した。同日、業者に修繕を依頼し、2日に渡り作業してもらった。翌日の正午頃に漏水の修繕作業が完了し復旧した。

### ○ロッジF棟の給湯器取替

経年により不具合が発生した、ロッジF棟の浴室給湯器の取替えを行った。

# 広報活動

広報活動としてイベントブースを出展したり、出張指導を行ったりして施設のPRを行った。

日付	内容	場所	人数
5月 8日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	56人
6月 6日(木)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人
6月 8日(土)	ブース出展 NHK「キラリ・みず・こうち」	土佐市複合文化施設つなーで	733人
7月 12日(火)	出前講座 「防災学習」	田野町立田野小学校	35人
8月 2日(金)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	41人
8月 18日(日)	出前講座 おらんくの室戸大学サマーセミナー	高知県立室戸高等学校	15人
8月 24日(土)	ブース出展 土佐室戸鯨舟競漕大会	海の駅とろむ	54人
9月 29日(日)	ブース出展 ふるさと室戸まつり花火大会	海の駅とろむ	508人
10月 5日(土)	くろしお祭り 2024 in とろむ	海の駅とろむ	460人
10月 19日(土)	ブース出展 室戸海洋深層水フェスタ	高岡漁港ふれあい公園	89人
10月 22日(火)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	38人
11月 2日(日)	ブース出展 高知大学物部キャンパス一日公開	高知大学物部キャンパス	246人
11月 6日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人
11月 10日(日)	ブース出展 甫喜ヶ峰フェスティバル 2024	甫喜ヶ峰森林公園	74人
11月 15日(金)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	46人
12月 14日(土)	ブース出展 こぢやんち楽笑祭～冬の陣～	海の駅 とろむ	55人
1月 16日(木)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人
1月 17日(金)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	46人
2月 11日(火)	ブース出展 環境活動見本市 東部のエコ大集合 2025	室戸市保健福祉センターやすらぎ	79人
2月 21日(金)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	54人
2月 23日(日)	ブース出展 むろと 2000 本桜まつり	高知県立室戸広域公園	92人
3月 5日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	54人
			計 22回 2,955人



出前講座 防災学習

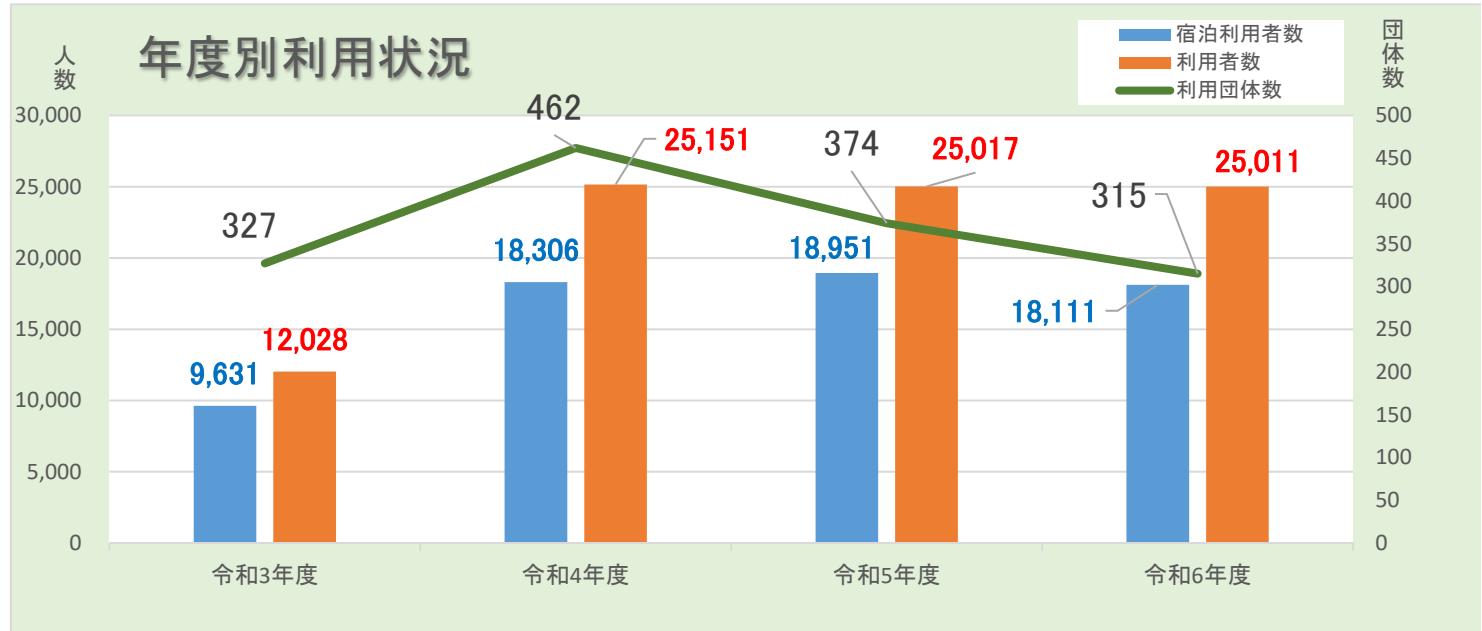


ふるさと室戸まつり

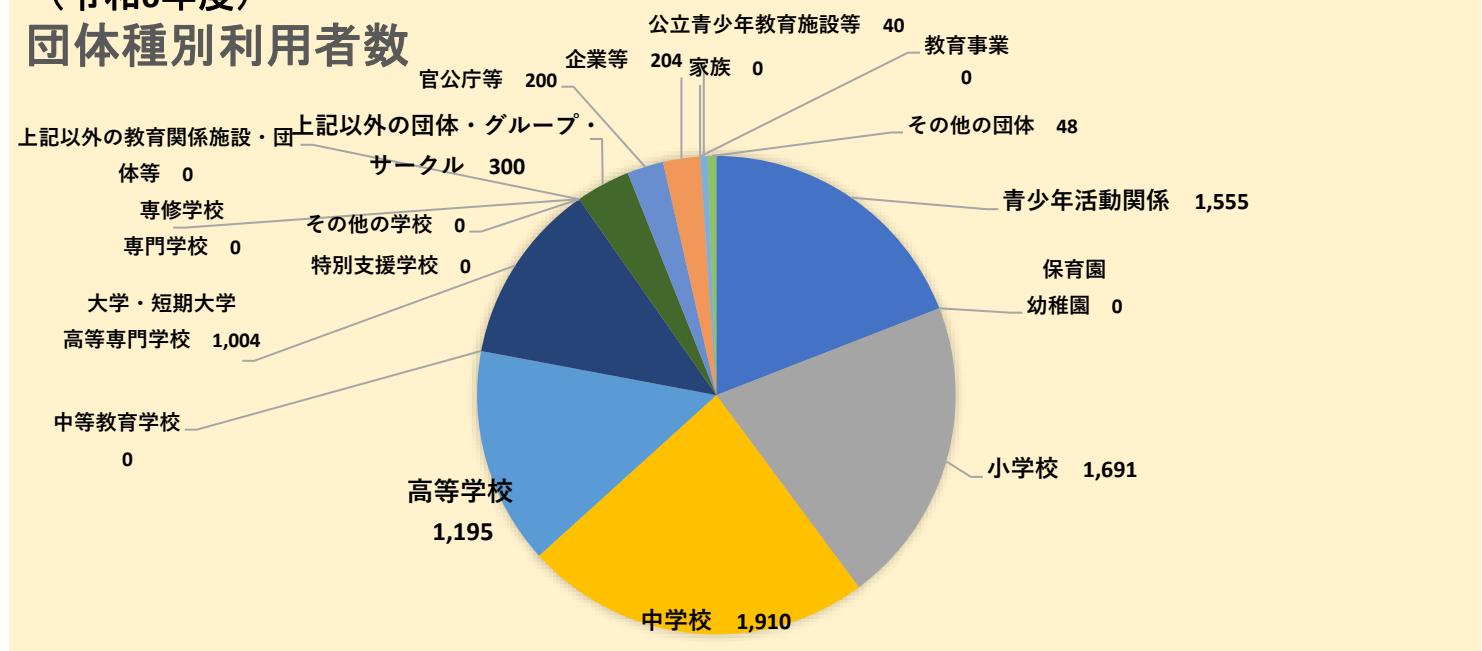


環境活動見本市

## 年度別利用状況



## (令和6年度) 団体種別利用者数



## 月別利用者数

